

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 農政課	平成27年度
団体名	福原ファームクラブ	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	自然にやさしい福田田んぼ活動	
協働事業の概要	日本人の「食」を支える「田んぼ」に関わる事で、生物多様性を育む自然を継続させると共に、一般消費者に対して「田んぼ」の重要性をアピールする事業。 福田地区において、「田んぼ」の実情を観察し、米の収穫作業を体験する。田んぼの周りの環境を観察して米の収穫だけではない「田んぼ」の役割を理解し、次世代に残せる農業を考える。 ○9月13日(日) 田んぼオリエンテーション、田んぼの周りのムシ探し 10名 ○9月27日(日) レンゲの種蒔き、田んぼの周りのムシ探し 38名 ○10月4日(日) 稲刈り 収穫祭 60名	
協働事業の決算額	30,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年9月13日 ~ 平成27年10月4日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	34.5 点
------	--------



稲刈りの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

この事業も2年目ということで、問題なく実施できたと思います。残念なことは、市広報を見て、参加いただいた方が少なかったことです。紙面の下部に募集記事が掲載されたことで目立たなくなってしまったのかも知れません。その一方で、昨年の参加者が協働事業とは別の年間を通じた活動に参加していることは、この協働事業の効果のひとつであり、うれしいことでした。今後も活動の輪が広がっていくことを期待いたします。

【市民活動団体等】

昨年度の協働提案事業に参加した方の継続が多かったため、6月からの行事に知り合いを誘っていただき、9月からの参加が少なくなりました。「田植え」「虫の観察会」への参加希望が多く、提案事業だけでは魅力が無かったのでしょうか。しかし、現在の募集方法では仕方の無いことで、来年度も同じようになるかもしれません。アンケートでは、答えて下さった方全員が参加希望していますから。

参加家族構成の大半は、幼稚園児（保育園児）、年下の幼児と両親で、年齢が上がっていくと、土、日曜が習い事になってしまおうと思われるので、協働で無くなった場合は教育機関（幼稚園）との連携を企画する必要があると思われます。また、農業従事者が行事の計画や調整等関わるのは大変なので、事務的な作業を行うボランティアの確保を考えていく必要もあると思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	7名	A
B	2名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

- このような事業は年間を通じて行うことが望ましいが、協働事業の性格上難しい面もある中で、別の年間を通じた活動に参加されていることは大変喜ばしいことであります。
- 新規の参加者が増加するよう、募集方法と事業の告知について再検討願います。
- 他の地区ではこどもサポート委員会の事業として年間を通じて行い、小・中学校が保護者や地域の人とともに参加していますので、連携はできないでしょうか。教育機関とも連携しても良いかもしれません。頑張ってください。
- 田んぼは主食であるお米の栽培や保水機能もありますので、多方面からのアプローチをお願いしたい。また、伝統行事との関わりも子供たちにわかり易く説明出来たらよいと思います。
- 人間にとって大事なこと、また、身のまわりにこのような仕事、活動をするこの場が少なくなっている現代において、協働事業としてふさわしいと思います。
- こども育成課や保育課との連携などで参加者が見込めるのではないかと思います。市街地から近いところにある田んぼは貴重な資産であり、農産物直売所などに市民の人気があるので、地産地消、子どもと土のふれあいを望む家庭は多いです。農家と市民をつなぐコーディネーター的役割をどこかが担う必要があるのではないのでしょうか。他団体、子ども会、保育園、子育てサークルなどとの連携が進むと良いかと思いますが、年間を通して活動に参加する人が増えているのはモデル事業が定着しているということでしょう。

協働事業評価シート

部課名	保健医療部健康づくり支援課
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	プレママつながり事業		
協働事業の概要	<p>1) プレママ（妊婦）とプレパパ（パートナー）を対象に講座を企画・運営（年4回実施）</p> <p>○ マタニティ・ヨガwithパパ+先輩ママパパ赤ちゃんとの交流会（年2回実施） ママがヨガをしている間、別室にてパパ同士の座談会方式の交流会の実施</p> <p>○ 安産と母乳のはなし+交流会（年2回実施） 産前の過ごし方、産後の身体の変化、赤ちゃんとの生活や母乳育児のコツなどの講話と交流会の実施</p> <p>2) 告知： 広報・チラシ、団体HPの活用、保健センターで開催するプレパパママスクールにて担当スタッフによる告知の実施。産院へチラシ掲示協力。</p> <p>3) プレママパパのニーズ調査： アンケートやヒアリング等を実施しニーズ調査の実施。</p> <p>4) 産前産後の切れ目のない支援へつなげる 産前から地域へつながっているという安心感を得られ、産後の支援へとつなぐ。 昨年度参加の先輩ママパパから経験談を聞くことで子育てのイメージ作り。 子育て情報誌「こえどちゃん」やネットワーク通信を活用し、子育て支援施設の紹介。</p>		
協働事業の決算額	50,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年 6月23日 ~ 平成28年 2月28日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



「たまごサロン」
実施の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業で実施できたことは、お互いに役割分担をし、効果を上げることができたように感じる。また、市では実施できない部分を団体が実施することで、より、産前・産後の切れ目のない支援の充実が図られると思われる。

【市民活動団体等】

協働事業で実施できることは、信頼度の向上や広く告知ができる点で多いに感謝している。今年度はプレパママスクールでの告知も実施したことから、昨年度より参加人数が増加した。アンケート結果からも健康づくり支援課の協力のもと配布したチラシや広報、プレパママスクールで知って参加した方が多く、行政の持つ特性が活かされていることもわかった。特に子どもが産まれるまでは地域に目を向ける意識が乏しい妊婦への告知は当団体だけでは出来ないことだと強く感じる。

内容については、昨年度と同様だが、昨年度参加者の先輩パパママとの交流時間を多く設け、より子育てを具体的にイメージすることができていたようだった。参加者の産むことには関心が高いが、子育ては地域とのつながりが必要だという認識が薄い点を、講座に参加したことで、夫婦で地域で子育てをしていくという良い意識付けになった。また夫婦で講座に参加することで夫婦の絆づくりにもなった。今回参加してくれたプレパパ・ママをまた次年度の先輩パパ・ママとして協力してもらえよう、声をかけていきたい。

全国的にも「産前産後の切れ目のない支援」事業は広がっている。川越市でもこの事業がその一助となるように継続して実施していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	9名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	評価結果 A
B	0名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

・団体の信用度の向上や事業を広く告知できる等協働のメリットをよく理解している団体なので、行政とのコラボを上手に活用できたようです。行政としても「川越は子育てしやすい街」というイメージや実際の取り組みが口コミで広ると市政にとってもプラスになるのではないのでしょうか。転入手続のときにプレママつながり事業などのパンフを配布すると安心して子供を産もうという空気づくりにつながります。「産前産後の切れ目ない支援」は、市町村政策でも他と差別化のできる分野です。モデル事業として継続してほしいです。

・パパママスクール等に男性が参加し妊婦時・子育ての大変さを認識され協力して子供を育てる父親が多くなることを望みます。そのためにも地域に事業への理解がより一層広がることを希望します。

・社会の人間関係の希薄化、核家族化の中で現実的に必要とされる事業であり、市との協働事業としてもふさわしいものと思います。

・行政では実施が難しい課題に対する講座に前年よりも参加人数が増加したことは大変うれしく感じました。このような課題の当事者の視点で実施される講座が市内で数多く実施されることを期待します。

・「産前産後の切れ目のない支援」は重要な視点であり、協働事業から、市の子育て施策に反映されるよう、今後の活動も頑張ってください。そのためにも、行政側も企画・計画立案への参画等を行いながら、より協働を深めていただきたいと思います。

・核家族が進み、また地域での交流が薄れていく中で、この様な取り組みは大事と思われる。特に子育ては夫婦で行うもの、特に男性の意識を変える為にもいい取り組みだと思います。行政とも協働しやすい、またしなければならないことと考えます。

・若い世代の子育ては周りに適切なアドバイスのできる人が少ないと思われるので、この様な事業は必要性が高いと思われる。産前産後の支援があってこそ安心して子育てができるのではないかと思います。長く続けてほしいと思います。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部美術館
記入団体名	川越百景絵画展実行委員会

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	川越百景絵画展児童・生徒の部第2回展		
協働事業の概要	<p>川越市が選定した川越百景をモチーフにした平面作品を、市内在住、在学の小、中学生から公募し、審査の上、入賞（市長賞など）55点入選145点総数200点を市立美術館に公開展示した。</p> <p>○作品の公募【公募期間：平成27年7月～11月30日】</p> <p>○主催者が「緑陰写生会」を7月25日(月)に市内5か所で同時開催</p> <p>1.お伊勢塚公園 参加者9人（児童6人、保護者3人）</p> <p>2.水上公園 参加者7人（児童4人、保護者3人）</p> <p>3.仙波河岸史跡公園 参加者22人（児童13人、保護者9人）</p> <p>4.伊佐沼冒険の森 参加者23人（児童10人、保護者13人）</p> <p>5.福原の雑木林 参加者54人（児童30人、保護者24人）</p> <p>合計参加者数115人（児童63人、保護者52人）</p> <p>○審査会での審査した入選・入賞（市長賞など）の作品200点公開展示（出品数：小学校748点、中学校223点 合計971点）</p> <p>【会期：平成28年2月7日(日)～14日(日)】</p> <p>○入選・入賞作品集1000部を刊行【平成28年2月】</p>		
協働事業の決算額	200,000円	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年7月～平成28年2月14日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34.5 点
------	--------



「川越百景絵画展」の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

写生会を実施してまで子どもたちに屋外で描かせたいという熱意はすばらしい。しかし、参加児童・生徒を集めるのは非常に困難で、美術館から学校の先生方に何度も依頼して、なんとか力所での開催にこぎつけたという現実がある。来年度の写生会の実施については、場所の精選や広報の仕方の工夫が必要と思われる。

来年度は一般の部と同時開催という新しい形での実施を目指しているので、児童・生徒の部を今年度のように十分な準備のもとに行うために、より計画的に取り組んでいきたい。

【市民活動団体等】

協働事業として2年目となった今年度は、子どもたちに郷土の風景や美術に関心を持ってもらうという目的をより達成するため、小学校の夏休み期間に「緑陰写生会」を実施した。さらに、写生会を実施するにあたりボランティアスタッフを公募することで、より多くの市民に関わっていただくことができた。学校の関わりに濃淡があり実施会場により参加者数が偏ったことや、時間が足りなかったという声があったなど課題点があったが、天候に恵まれたこともあり、おおむね好評のうち実施することができた。また、写生会の参加児童すべてを出品に結びつけることはできなかったが、受賞作や入選作品の中に数点散見することができたことや、環境ネットと連携して実施したことで、環境教育にもつなげることができ、事業を発展することができたと考える。

《緑陰写生会サポートスタッフの感想》（添付資料抜粋：参照）

- ・美術振興に極めて有効
- ・保護者の表情や言葉に感謝している気持ちが現われていた。
- ・地域貢献にとって大変有意義。
- ・参加児童はいずれも意欲的であった。
- ・川越第一小、福原小、霞東小など先生が応援に来た。
- ・木陰の空気を吸いながら描くことは素晴らしい。

出品数は、昨年度に比べ約3倍に増加した。今年度はプロジェクト会議を設置して事業を推進し、より多くの学校に理解・協力を得る一方で、情報発信や「緑陰写生会」の実施など小中学生へ直接働きかけを行ったことで、出品数の増加につなげることができた。来年度は、一般の部を設け、さらに市の文化振興に寄与したい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	6名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	評価結果 A
B	3名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

- ・郷土愛を育む事業でもあり、地域を見直すよい機会を与える事業です。協働事業としてふさわしいと思います。
- ・大変いい企画だと思いますが、参加者が少なかったのが残念です。
- ・子どもの写生画でも見事な作品が多く見受けられ、家族で観て来ていた人達も大変楽しそうに見入っていました。小学校の参加校を増やせばよいかと思いますが、その点では行政側の意識改革も必要だと思います。
- ・体験することが減ってきている児童たちにおいて、夏休みに外で写生をし、その作品を展示してもらうという経験は貴重だと思います。地域の景色に愛着をもつ種を子ども達にまいたのではないのでしょうか。継続してほしい事業ですが、子どもを集める工夫、絵画教室との連携、学校との関わり行政の後押しがもう一歩ほしいです。
- ・昨年度に比べ本年度は改善点が見られます。来年度も先生、保護者、一般市民へ一層の準備、計画をし、多くの方が参加しやすい場所、月日等も検討して頂きたいと思います。
- ・郷土愛を育む事業でもあり、地域を見直すよい機会を与える事業です。協働事業としてふさわしいと思います。
- ・展覧会の中で描かれなかった百景も、実行委員のスケッチ等で構わないので一緒に展示することは出来ないのでしょうか。百景が揃うことで、より川越を把握でき、生涯学習や文化、芸術に寄与できると思います。
- ・参加児童・生徒を集めることに苦労したとありますが、どんな事業でも初回から希望通りに実施することは困難です。反省を踏まえながら徐々に進化するように頑張ってください。
- ・来年度は一般の部と同時開催としているが、参加児童・生徒の保護者も対象に含めてください。
- ・表彰式はどのように実施したか、またどのような賞があるか、賞品は何を贈ったかお伺いしたいと思いました。

協働事業評価シート

部課名	福祉部 高齢者いきがい課
記入団体名	柿木の家

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/>	継続 <input type="checkbox"/>
--	-----------------------------

協働事業名称	高齢者生き生き事業＝空き家を活用した高齢者生活支援・介護予防・社会参加事業＝		
協働事業の概要	空家を使って、 1 学びの学習教室（学習、健康体操、遊びクラブ） 2 高齢者の居場所・サロン作り 3 手作り食事会 4 リユース事業を目指したが、リユースは未実施である。		
協働事業の決算額	118,000円	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年7月1日 ～ 平成28年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	4	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	4	4
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	3	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	3	3.5

合計点数	27 点
------	------



手作り食事会
実施の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

高齢化率が高く、まさしく高齢者が高齢者を支えることが必要となった地域で、空家問題にも触れつつ、高齢者の居場所、活躍の機会を作り上げるこの取組は、今後各地域で必要となると考える。

実際の活動を見ると、参加されている方は皆楽しそうで、この場所ができたことを嬉しく思っている。継続して来たい、仲間を増やしたいと笑顔で話されている。特に、先生役を担ってくださる高齢者の方の、生き生きとした姿と素晴らしい指導ぶりは、高齢者の底力を感じるところである。これまでの経験を社会に活かすことができる高齢者は大勢いる。同じ地域に住む者がその力を見出し、地域の中で、このような活動を通じて自然と助け合えるまちづくりができると考える。今後も、当団体の活動がさらに活発なものとなり、他の地域にもこのような取組が広がることを期待する。

【市民活動団体等】

準備・スタート段階（7～8月）で健康管理が不十分で「熱中症だよ、あんたも」といわれまして、時間をロスしたことが大きく響いたと反省しています。地域の人に「3年計画だ」というと、「あんたももうすぐ80歳だからね」と笑われますので、「まだあと2年4カ月もあるよ」と言い返しています。私は現役の仕事は「福祉」でしたので、つい「福祉」に収斂してしまいましたが、もう少し広い多様な市民の生活感覚に立つ視座を持って、この空家事業が継続され、小なりといえども「街づくりに関心を寄せるマンパワー」の拠点（居場所）の一つになればいいなと希望しています。でも、歳で、「物忘れ外来」にかかる必要性を痛感している毎日です。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	4名	B
B	5名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

協働事業名称**高齢者生き生き事業＝空き家を活用した高齢者生活支援・介護予防・社会参加事業＝****【事業に関するコメント】**

・元気な高齢者たちと、身体不自由で外出の機会が少ない人が気軽に交流できる場所、活躍できる機会を作ることに取り組んでおられることは素晴らしいと思います。食事は塩分控えめに緑黄色野菜を取り入れるメニューを心がけてください。

・高齢化が進行する現代において、行政の対策が不十分であることを考えると、このような事業は重要です。今回は体調不良等で満足にいかない点もあったようですが、反省を翌年度以降に反映させ、より充実した事業となることを期待します。また、市も何らかの施策に盛り込めるとよいと思います。

・空家、シニアの健康・いきがい、地域コミュニティづくりなど行政や地域が抱える課題に対し、自主的に楽しみながら取り組む団体に敬意を表します。モデル事業として、行政は発信すべきでしょう。同じような取り組みをしている団体とネットワークが出来れば講師の派遣などが出来ますし、埼玉県のマッチング事業の専門家を紹介したいと思います。

・素晴らしい取り組みであり、各地に広がることを期待します。

・地元と協力し、幅広い世代を運営に取り組むことで、負担が少しでも軽くなればと思います。

・鍵当番等に対しては運営費、人件費を計上しても良いのではないのでしょうか。

・地域からの情報発信の観点で、包括支援センターだけでなく、所管課も積極的にかかわって欲しいと思います。

・チラシに協働事業補助金と明記をお願いします。

協働事業評価シート

部課名	福祉部生活福祉課
記入団体名	チームひだまり

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	生活困難家庭の児童生徒へ対する学習支援事業	
協働事業の概要	<p>川鶴地区において、2015年10月～2016年3月にかけて、「ひだまり塾 後期クラス」を実施した。</p> <p>1. 実施場所：「コミュニティカフェ ひだまり」（川越市川鶴2-11-1） 2. 実施期間：2015年10月3日～2016年3月12日の毎週土曜日（計23回） 3. 実施時間等：（分類 …実施時間 …担当講師 について） ・小学生の部…10：00～11：30講師…教員OB 3人（うち外部講師2人） ・中学生の部…19：00～21：00講師…大学生 外部講師のみ5～6人 ・高校生の部…19：00～21：00講師…大学生</p> <p>4. 実施方法：講師1人に対し生徒1人～3人の、徹底した個別指導態勢をとった。 5. 生徒人数：小学生…4～7人、中学生5～8人、高校生0人 6. 講師打合せ：毎回、塾終了後に講師の話合いを設け、生徒の学習理解や家庭の様子等を相互に把握し、次回の課題等について打ち合わせた。 7. 受講料：入塾希望者の保護者と面談し受講料を決めた。生活保護家庭、母子家庭が増え、無料や低額が増えたため、受講料は予定を下回った。 8. その他：教材は学校使用のものを中心とし、学習習慣をつけさせ基礎学力を養わせた。高価な辞書・参考書・問題集等を塾で用意し貸し出した。</p>	
協働事業の決算額	160,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年7月～平成28年3月12日（土）	

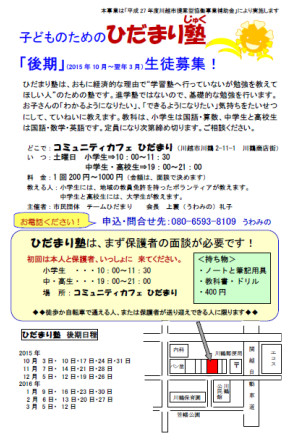
協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



生徒募集チラシ

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】
生活困窮者の学習支援は、学習の習得だけではなく、子どもの居場所づくりも非常に大事なことである。事業実施の結果において、学習意欲が出てきたり、学校を休まなくなったり、算数で0点を取った子の早期のつまずきに手当できたりと、この事業の目的を十分に達成できているので、評価できることである。このような取組が、他の地区へのモデルとなって広がっていくことで、さらなる事業の発展が見込まれるのではないかなと思う。

【市民活動団体等】
チームひだまりは、2011年9月設立し地域づくりに努めてきた市民団体である。この間、資金面での自立を守り税金には一切頼らない姿勢を貫いてきた。「生活困難家庭の児童生徒に対する学習支援」は、「人手」は市民団体が提供するとしても、税金を適正に投入すべき事業であり、協働事業にふさわしいと考え提案した。提案に先立ち関係課に問い合わせたところ、川越市での学習支援は生活保護家庭限定で、中学生・高校生のみが対象であり、それぞれ1ヶ所での実施であった。子どもの貧困は6人に一人の割合で迫っている問題であり、生活保護家庭限定の問題ではない。学習支援拠点の数も、33万人都市で1ヶ所のみでは少なすぎる。せめて中学校区に一つは必要な実態があることを、川越市は理解してほしい。子どもの貧困を放っておくと、近い将来、市の財政に大きな負担をかけることにもなる。市が総力を挙げて対策を実施するよう切望する。
協働事業は補助率50%のため、困窮度が高い生徒を多く受け入れるほど受講料収入が見込めなく、「持ち出し」になるジレンマがある（民間財団の助成金は補助率100%）。チームひだまりは、民間財団助成金を獲得する実績を積んでいるが、「川越市の子ども貧困」対策を前に進めるために、「持ち出し」のリスクを背負っても「生活困難家庭の青少年に対する学習支援」を協働事業として提案し続ける覚悟である。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	6名	A
当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。		
B	3名	
ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。		
C	0名	
当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。		
D	0名	
協働事業としてうまく機能しなかった。		

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

- ・子どもに対する格差解消の手助けになるよい事業だと思います。川越市との協働事業であることは信頼性も高まるので、ぜひ支援していくべき事業と考えます。
- ・学力が向上して自分に自信がつき不登校気味の生徒も学校を休まなくなる等、実績もかなり大きいと感じました。これからも長く続けてほしいと思います。
- ・行政にとって多様な課題を、課題としてみえる形にしてくれた事業だと思います。チームひだまりからの問題提起をうまく政策に反映して頂きたいと思います。この事業は、埼玉県社会福祉協議会の講演会でも事例として発表されており、生活保護受給者チャレンジ支援事業の校区版として注目されています。協働事業の補助率は他市でも4/5などが多くっており、当事業制度の改善も検討が必要かと思います。あえて持ち出しをしてでも川越市と協働することを選んだ市民の熱意にこたえるべきです。
- ・塾に行けない学校の授業にもついていけない子どもも多く学校・地域での取り残された子どもに自信を取り戻し、居場所づくり、仲間づくりにも役立ちます。先進事例として他地区へ波及効果もありますので、各支会に増やすように継続をお願いします。
- ・小学生での学習の躓き等が解消でき、それらを中学・高校へとつなげられるようなプログラムがあると素晴らしいかと思います。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入団体名	尚美学園大学

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	武蔵野里山イニシアティブ「里山賛歌音楽祭」KAWAGOE2015		
協働事業の概要	音楽祭開催日時：平成27年12月23日（水・祝）14:00～16:30 会場：ウェスタ川越大ホール 第1部：高校生による吹奏楽演奏 出演：埼玉県立川越総合高等学校・川越市立川越高等学校 第2部：オーケストラと合唱の饗宴 演奏：尚美学園大学管弦楽団／合唱：里山讃歌音楽祭合唱団 他		
協働事業の決算額	200,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年7月1日 ～ 平成27年12月23日（音楽祭開催当日）		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	3	3
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	3	3

合計点数	25 点
------	------



「里山賛歌音楽祭」
実施の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回は、会場を川越市市民会館からウェスタ川越大ホールに移しての開催、また、提案型協働事業も初の試みということもあり、御担当者の方は試行錯誤での開催であったことと思います。しかしながら、内容は例年よりも学生のパワーを感じる素晴らしい舞台でした。市としては、役割分担として広報面のみではなく、もう少し要望を聞きながら協力していけたら良かったと思います。

【市民活動団体等】

本年度は、提案型協働事業という形では初めての実施であったため、当初の事業企画通りには実施することができず（特に、合唱団の市民公募に関して）、反省点も多い。しかしながら、従来からの参加校である県立川越総合高等学校に加えて、川越市立川越高等学校の参加が得られるなど、市民、特に、若い市民の参加という点では、今まで以上に市民に関われた音楽祭が実現できたと考える。
アンケートや参加校から寄せられた感想には、「来年も楽しみにしている」「是非今後も継続してほしい」という意見も多かったため、今後も継続を前提に、体制の見直しを図っていきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	1名	B
B	6名	
C	1名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

- ・協働の形態①（補助・助成）だけでなく⑤（情報交換）⑥（実行委員）等に力を入れていくと良いでしょう。若い力を集結することは、目的の郷土への愛着心をはぐくむ上で重要ですので、ぜひ力を入れてほしいと思います。
- ・大学と高校が行政と一緒に事業を行うということで早々にチケットを購入したが運営面での広がりがあったと思います。行政の支援の難しさを感じました。音楽会は素晴らしかったので、今後も続けてほしいです。
- ・謝金の必要な人材が多いと思われました。地域参加も考えにいらしてはどうでしょうか。
- ・高校と大学の提携という事業は素晴らしいと思います。協働事業にもふさわしい案件でした。今後も継続をして頂く中で、合唱団の市民公募もぜひ実現してほしいと思います。
- ・音楽祭等に一般市民が参加することは勇気がいります。舞台、客席等と一緒に歌える曲目も選び市民も気軽に参加できるような時分があればもっと楽しく市民に開かれた音楽祭になるとと思います。
- ・協働事業としての学校との連携は難しい。相互の目的や目標を確認しながら進めることが望ましいと思います。
- ・市内2校の参加にとどまらず、中学生や一般等の幅広い参加を目指してほしいです。
- ・合唱団の公募について担当課と調整し再構築をお願いします。この辺りが不十分であると協働事業として成立しなくなってしまうでしょう。
- ・高額な経費が掛かり、大学の持ち出しも半額以上となっているので支出を見直した方が良くと思われれます。
- ・協働事業により成果が出たポイントが分かりませんでしたので、その点を明確にしてほしいです。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課
団体名	川越唐人揃いパレード実行委員会

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	第11回復活！唐人揃いー朝鮮通信使ー多文化共生・国際交流パレード		
協働事業の概要	<p>朝鮮通信使の仮装行列「唐人揃い」を中心に、20団体約400名ほどが、色とりどりの民族衣装などで着飾り、蓮馨寺を拠点に連雀町から札の辻でパレードとパフォーマンスを行い、川越の文化遺産を紹介した。また、今年度は新たに「子ども通信使」がパレードに参加し、市立川越高校の生徒会がボランティアとして参加するなど、多世代において在日外国人との交流を実現し、多文化理解を深めることができた。</p> <p>日時 2015年11月15日(日) 12:00~15:30 場所 蓮馨寺及び連雀町~札の辻(一番街・大正浪漫夢通り) 内容 開会式 パレード(20団体 約400名参加) パフォーマンス(一番街の3ヶ所で) 閉会式</p>		
協働事業の決算額	200,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年11月15日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33 点
------	------



パレードの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

様々な地域や国の方が参加し、交流できるイベントは市内では少ないため、大変貴重なものです。また、11月という秋の行楽シーズンに交通規制を伴うイベントが開催されることは、観光面での効果も非常に高いと考えます。

協働事業は本年度で終了しますが、川越の歴史、多文化への関心や、国際交流に繋がる機会として、今後も継続して開催していただけるように、できるかぎりの協力をしたいと考えます。

【市民活動団体等】

一昨年昨年に引き続き協働事業ということで事業を行うことができ大変よかったですと思います。今年は11回目ということで、当委員会も主催者としての責任をこれまで以上に感じました。これからも継続していくための新たなスタートとしてとらえ、「子ども通信使」を参加させるなど趣向をこらしました。毎回、天気にはやきもきさせられますが、午後青空まで見え無事成功裏に終えたときは安堵感と満足感で一杯になりました。

現在、「朝鮮通信使を世界記憶遺産に登録しよう」と日韓共同で活動していますが、「川越唐人揃い」もその活動の一端をにない、ささやかながらも日韓友好に貢献できればと思っています。

2005年から始めたイベントですが、川越市をはじめ市民のみなさんのご理解ご協力で11年間も続けることができました。厚くお礼申し上げます。また3年間協働事業としておこなうことができたことを感謝申し上げます。来年からもできる限り継続していきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	6名 当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名 ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名 当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名 協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

・大変大がかりな事業でした。参加者も楽しそうに、また、見学者も外国の文化を知るよい機会になりよかったと思います。

・11月秋のイベントとして蔵の街をパレードするものとして定着してきた感があります。観光効果的にも、川越まつりと違い、他地域の人も参加できる点で20万円の市の補助金で多方面への経済効果もあがっていると思う。観光課の事業補助を検討してもよいのではないのでしょうか。今後も継続してもらいたい秋のイベントのひとつになっていると思います。

・国際交流や多文化共生をより前面に出して実施すれば、2020年のオリンピックに向けてさらに盛り上がる事業となるのではないのでしょうか。

・年数を重ねるにつれて、秋のイベントのひとつとして、市民の認知度も高まり盛況になっていると思います。関係者の皆様に敬意を表するとともに、更なる発展に向けて励んでいただきたいです。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成27年度
記入団体名	高階南マジッククラブ	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	マジックを通じた世代間交流、児童等のボランティア活動の推進事業	
協働事業の概要	○高階地区を中心とした小・中学校、福祉施設に講師・スタッフを3～4名派遣する。 ・小中学校への派遣回数 6回（参加児童：延べ80人） ・福祉施設への派遣回数 12回 ○夏休み中の学童保育でやさしいマジック教室を開催する ・実施回数 3回（参加児童：延べ約90人） ○高階南マジックフェスティバルの実施（開催日：平成27年9月27日（日）） 来場者約160名 小学生によるアートバルーンの披露	
協働事業の決算額	167,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年7月1日 ～ 平成28年3月7日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	3	5	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	5	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	5	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	5	4

合計点数	29 点
------	------



マジックフェスティバルの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回の協働事業を実施するにあたり、事前の団体ヒアリングなどから、マジックという分野に対する見方が変わった。単なるマジックの披露だけではなく子どもたちの健全育成や、地域コミュニティの形成などを目的に、他の分野と比べ軽く見られてしまいがちなマジックという文化活動の地位向上を目指すという団体の運営方針は非常に素晴らしいと感じた。

その中で、今回協働事業を実施するにあたり、これまでの公民館活動の延長ではなく協働の趣旨に則った事業の実施を念頭に双方進めてきたが、満足のいく結果には結びつかなかった。

団体の運営方針を理解し、団体の自主性を確保しつつ、役割を明確化したことは良かったと感じたが、やはりこれまでの活動実績が基となり事業を進めていったため、全市的な公共サービスの効果的、効率的な提供にもう一歩踏み込むことが出来なかった。双方の協議をもう少し重ね、意見を出し合うべきだったと感じている。

【市民活動団体等】

現代は、子供たちが人間関係よりインターネットの世界に没頭し、仮想と現実の社会が混然と交わり合い、物事の善悪もはっきりしない状況におかれています。また、元気な高齢者はボランティア活動など精力的に活動しているものの、介護を必要とする高齢者は施設や自宅に引きこもりがちになっています。

このような状況下で、世間では振り込め詐欺のような文明の利器を悪用した犯罪が毎日のように行われます。こうした時代においては、各個人が善悪を見極め、情報に振り回されるのではなく、自分の頭で考え物事を判断する力が必要となります。そのような判断力をマジックを通じて子どもたちや高齢者が身に付け、世代間の交流を促す事業を今後も目指したいと思えます。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	1名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	6名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	2名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

【事業に関するコメント】（続き）

・現代は子どもたちのつながりが希薄化していますが、マジックを通じて文化活動の向上を図り、子供から高齢者まで世代間交流を促す点等とても良い企画だと思います。事業を継続することで学校も理解を示してくれると思います。

・事業目的に対する認識が、行政と団体でズレがありますので、次年度はこの点を中心に打ち合わせを行い、より良い事業となるよう期待します。

・行政担当者が“協働”することでマジックのもつ可能性を知ったことは大きいと思います。このような体験をした職員が庁内に増えることで、行政と市民の協働が本当の意味で根付くと思います。団体は子どもやシニアの課題をよく理解した上で、マジックをツールにその課題の解決に取り組んでいることがよくわかりました。夏休み中の学童保育でのマジック講座は学校を対象とするより実行しやすいかもしれませんが、学童に広げるのは1つの手であると思います。

・マジックは大人が見ても子供が見ても楽しいものですし、トリックを考えさせるものです。高齢者が集まりやすい場所で披露し、楽しい時間を共有できるようにお願いします。

・マジックを通じ世代間交流を図る取り組みは、地域のコミュニティ形成に役立つと思います。

・協働事業としてふさわしいのか再考が必要です。それぞれ団体の活動として楽しみながら可能な範囲ですべきことではないでしょうか。

・講師謝金の項目が予算と決算で金額2倍になっていますが、そこまで変わるものでしょうか。予算から再考が必要です。

・アンケート結果の添付をお願いします。

・学校との打ち合わせが不十分だったと記されているが、初めてのことで学校側も構えてしまったのではないのでしょうか。担当課との打ち合わせも十分でなかったのかもしれませんが。

・当初の目的である世代間交流やボランティア活動の推進が図られていないように思われます。運営方針等を再考する必要があるのではないのでしょうか。

・協働事業としてどのように成立させるか一考を要すると思います。

協働事業評価シート

部課名	総務部 総務課
団体名	村瀬守保写真展実行委員会

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	村瀬守保写真展「平和をねがう一兵士が残したもの」	
協働事業の概要	平和写真展『村瀬守保写真展「平和をねがう一兵士が残したもの」』の実施 ○日時：平成27年8月11日(火)～8月23日(日) ○会場：川越市立美術館 市民ギャラリー ○展示内容：写真44枚(拡大現像10枚、拡大コピー5枚を含む) ○来場者アンケートの実施 ○解説員の配置(小・中学生のグループには、実行委員会会員が写真の解説を行い、理解を深めていただいたうえで感想文の記入をお願いした)	
協働事業の決算額	100,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年8月11日～平成27年8月23日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	4	4
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32.5 点
------	--------



写真展会場の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

評価シートに記入したとおり、市民活動団体の自主性及び自立性を最大限尊重することにより、行政のみでは困難なサービスの提供を実施できたと感じているが、残虐的要素等を含む写真の展示は控えてもらうなど、市民活動団体の自主性を制限せざるを得ない面も少なからずあった。

村瀬守保写真展実行委員会は、念入りに準備・設営等成し遂げており、協力・連携体制が非常によく築き上げられていると感じた。

【市民活動団体等】

先ずお礼を申し上げなければなりません。私ども市民の力だけでは到底不可能なことでした。村瀬氏の写真展を協働事業という形で実施できるのは恐らく全国でも川越市だけだと思います。また、教育委員会の協力も大きく、夏休みの宿題に「美術館見学」を出してくださったことに驚き、感激しました。それも協働事業だからこそと思いました。若者たちや外国人の来場者も多く、美術館、博物館、本丸御殿などの環境が静かで開放的なのもプラスしているのではないかと思います。

また、駐車場係員や近くの民間のレストランの方々にもご協力頂きました。殊に美術館の職員の皆さんには大変お世話になりました。感謝しております。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	5名	A
B	1名	
C	3名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

- ・夏休み中ということもあり、多数の参加があったのは良かったと思います。
- ・戦後70年の節目にもう一度、戦争を考える機会になった事業だと思いました。写真展会場には来場者が感想文を書けるように参考資料が用意されていました。実施された方の努力は伝わってきました。
- ・村瀬氏の写真の存在は知っていたが、川越とゆかりがあると知り驚きました。他の自治体が平和・戦争関連の事業に及び腰の中、良識ある行政・市民の協働が実行され成功に至ったことはとても誇らしいことだと思います。新聞にも大きく報道され社会的インパクトも大きかったと思います。
- ・このような写真展は思想的、政治的に捉える人もいるので細心の配慮をお願いします。
- ・イベント開催等に不慣れと思われる市民団体メンバーが、協働事業により、実行委員会を組織し、成功裏に終わっていることは、本事業の目的に合致し、望ましい結果と考えます。

協働事業評価シート

部課名	自立の家「つどい」
記入団体名	学校教育部 学校管理課

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	東日本被災地の人達に、励ましカードを届ける巡回展		
協働事業の概要	<p>○7月～10月 オリジナルカードの作成 学校管理課を通じ、市内の小中学生に被災者応援メッセージ入りオリジナルカードを作成してもらう。（作成カード数：約3,000枚）</p> <p>○11月14日（土）～11月18日（水）励ましカードを届ける巡回展の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所：ウェスタ川越 ・内容：ワークショップ・情報コーナーで応援メッセージカードをパネル展示するとともに来場者にメッセージ作成を呼び掛ける。 11月15日（日）座談会「支援活動を続けて・・・今思う」を実施。 ・座談会参加者数：32人 		
協働事業の決算額	70,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成27年7月1日 ～ 平成28年2月28日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	3	3	3
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中前・中	3	4	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	3	5	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	3	4	3.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	3	3	3
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	5	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	5	4

合計点数	25 点
------	------



座談会の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

小中高校生が、東日本大震災の教訓を風化させずに、防災教育に生かすとともに、児童生徒のボランティア意識の向上や、情操教育につなげるという点では意義のある事業であると考えている。

学校によっては、意義は理解しつつも新たな企画を盛り込むことは難しく、提出件数が少ないということもあったが、無理のない範囲でよく取り組んでくれた。

メッセージカードを作成した児童生徒自身が、どのように活用され、どのような影響を与えたかがつかみにくいということも感じられた。

【市民活動団体等】

協働事業に申請した大きな理由は、「被災地の人達へ心のケアを」と国内はもちろん国外へも呼びかけを行っていた中央大学名誉教授田中教授より「福島の本会場の前に、ぜひ川越で巡回展を」がきっかけでした。市長室で田中教授、市長、教育長とも面談し、田中教授の熱意が伝わり「川越でできることを」と申請した次第です。福島会場では、川越市特設コーナーを設置してくださり、多くの人と交流することができました。川越で開催したことも意義深く、たくさん子どもたち、川越市民、観光客からのメールは、東日本の人たちの心の拠り所になったと思います。

10名ほどの小さなボランティアグループですが、精一杯頑張りました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	0名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	8名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

【事業に関するコメント】

- ・震災から5年が経過し、風化も進む中、地道な活動が素晴らしいと思います。福島で川越コーナーを設置し、交流が出来たことは、市民活動ならではないでしょうか。メッセージカードを作成した児童へのフィードバック等も必要であると思います。
- ・初年度ということで、学校・地域にとって温度差があったようですが次年度以降は、この事業の大事さを関係者が共有し、更なる発展・拡大がなされることを望みます。
- ・川越からの一方向だけでなく、交流が生まれるような企画があれば、より効果的ではないでしょうか。
- ・震災の日付前後ではメディアで取り上げられるものの、その日を過ぎれば殆どなくなってしまうような現状においてこのような事業は重要だと感じます。
- ・直接被災地の人達へ、小・中学生、高校生、一般市民のメッセージが届けられたことはとてもよかったと思います。生徒に現地の状況を伝える報告会等があれば、生徒自身のボランティア意識の向上につながるのではないのでしょうか。
- ・現在は被災地へのボランティアの在り方、考え方も再考が迫られていますので、ボランティアの達成目標を明確にして活動する必要があると思います。
- ・人を思いやる気持ちを文章に書くことは大変だと思いますが、思いを伝える意味では大切だと思います。
- ・たくさんのカードが集まっており、見学者（協力者）の関心の高さがうかがえました。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
団体名	川越和楽器演奏クラブ「夕映え」

平成27年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	伝統「和楽器」演奏文化事業	
協働事業の概要	<p>小江戸川越の随所において、伝統和楽器の演奏を観光客及び地元市民に提供することで、情緒豊かな城下町川越のイメージアップを図るとともに、西洋音楽とは違う音色や奏法、呼吸法等を身近に感じていただくことで、伝統文化を若い世代へ継承し大衆化させることを目的とする。</p> <p>○実施場所：蓮馨寺、三芳野神社、氷川神社、伊佐沼公園、池袋南小学校 ○実施日：8/2(日)、8/8(土)、8/15(土)、9/12(土)、9/19(土)、9/27(日)、10/11(日)、10/17(土)、10/28(水)、11/14(土)、11/21(土)、12/5(土) 12/12(土) 計14回 ○観客数：647人(14回)</p>	
協働事業の決算額	90,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成 27年 8月 2日 ~ 平成 27年 12月 5日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	2	3	2.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	2	3	2.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	4	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	2	2	2
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	3	3

合計点数	21.5 点
------	--------



野外演奏の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

当初の目的である野外活動は、行政が関わることで条件等が厳しくなる部分もあり、申し訳ないと感じた。野外活動のみでなく、活動方法を模索し、より多くの方に和楽器の良さを知ってもらえるよう、もう少しバックアップ出来たら良かった。

【市民活動団体等】

小江戸川越に和楽器の音色を響かせ、城下町川越のイメージアップを図るという目的から、市内各所で野外演奏を実施したが、野外活動の難しさを痛感している。

しかし、半年間の経験を通じ、活動場所や天候等々野外活動のコツを把握できた。さらに、市内各所で和楽器の生演奏を初めて聞くであろう方々に多くの応援の言葉や感想をいただき、伝統和楽器の普及、大衆化への手ごたえを感じる事ができた。

また、縁あって池袋南小学校の講堂で、生徒達に尺八の演奏と体験学習を行うことができた。子どもたちの豊かな感性に和楽器のすばらしさが伝わり、大きな反響を得ることができた。（生徒183名が作成した感想レポート集の一部を提出するので参考にしてほしい。）

今年度は試行錯誤の活動であったが、この経験を生かし協働事業として更に充実した結果を求めて活動していきたい。具体的には、野外活動の際の急な天候不順に対応する場所の確保と、川越市内小学校での演奏と体験学習である。来年度は行政や他団体等と連携し、さらに多くの市民・観光客・子どもたちに伝統和楽器の文化普及活動を行っていきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	0名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	C
B	3名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	6名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	
評価結果			

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

・担当者からの感想にもあるように、伝統和楽器の文化普及活動に焦点を置き、他の部課（学校教育）と連携して、小・中学校の授業体験への参加を図ってほしいと思います。

・協働の趣旨に沿う為には開催の場所、日時等の実施方法の再検討が必要かと思えます。平日催し物がない時は啓発するのが難しいと思えますし、周知を広めるためには定期的に同じ場所で活動すべきではないでしょうか。今日も教育の中でも日本文化の普及が言われていますし、大事です。看板は素敵でしたので、前向きな活動に期待します。

・野外演奏が多かったようですが、天候に左右されない会場も考えに入れながら和楽器の良さを広めてください。

・外に出て広めようというチャレンジ精神を評価したいです。単独の活動よりも他イベントとのコラボレーションの方が広がりやすく団体の負担も軽くなるのではないのでしょうか。商店街やこども大学かわごえなどとのタイアップなど。小学校での体験学習は素晴らしいので継続してほしいと思います。

・発想は良いのですが、現実と目標の差があるように感じられます。来期以降も実施する場合は担当課と十分に協議を行い、協働事業として相応しい形を検討する必要があります。

・予算書に計上されていた練習用楽器の費用であるが、決算書には無いようです。事業内容が変わったと捉えればよいのでしょうか。